

文化

2

立川と語ろう 立川に生きよう
February 2006
écoutez bien Vol.24 No.255





はつ 初午

立春後初めての午の日はお稲荷さまの日「初午」。
江戸時代から五穀豊穡、商売繁盛を願って盛大に祝われた。
稲荷は古くからの農耕神。多くの農家では屋敷神として祀られていた。

春めてきたこもれびの里でも、木工のうまい指導員が作ってくれたにわかづくりの祠に膳が供えられた。

里でとれた小豆と米で小豆ご飯を炊き、焼いた目刺し、けんちん汁。もちろん、お神酒と稲荷神の使いとされるキツネの好物、油揚げも欠かせない。

笹竹に「正一位稲荷大明神」と書いた五色の幟を揚げるのは子どもたちの役目。祠の脇に段ボールで作った絵馬を掛けたり、出来上がったお膳を運んだり、皆で食べるご馳走の盛りつけを手伝ったりと、子どもたちも忙しい。

まだ冷たい風の中に梅の香りがまじり、向こうに見える丘の菜の花も咲き始めた。伸び始めた麦畑の端でサンシュユの黄色い花が鮮やかに春を告げている。春耕の時期はもうすぐだ。



太田 照邦さん（国立市在住）

テレビでこもれびの里を知って平成14年の第一期から参加しました。所属は植生チーム。いよいよ本格的に果樹を植え茶畑を作ります。その次は雑木林。玉川上水沿いのクスギ、コナラの種から苗を育て、10年後、20年後に武蔵野らしい景観が再現されるのを願っています。

乳がんになって、ありがたい!



NPO法人 ブーゲンビリア
内田絵子と女性の医療を考える会 理事長
内田 絵子さん

■内田絵子(うちだ・えいこ) / 1949年東京生まれ。93年シンガポール滞在中に乳がんの宣告を受け、乳がん摘出手術、抗がん剤治療、乳房再建手術とシンガポールで一年間の闘病生活を送る。「せっかく乳がんになったのだから」多くの人に自分の体験が役立てば嬉しいと、現在精力的に活動し続けている。著書に「メイド・イン・シンガポールのおっぱい」「おっぱいが二つほしい」がある。

■清水恵美子(しみず・えみこ) / えくてびあん編集工房

於：錦町のご自宅で 写真：五来孝平

清水 忙しくてらっしゃるのに、庭にお花がきれいですね。会の名前もお花のイメージでつけたのですか?

内田 ええ、そうです。女性の会だから花の名前がいいわね、って。シンガポールってブーゲンビリアが咲き乱れているんですよ。一つだと目立たないけれど、たくさんあると華やかできれい! 色も淡いピンクから白、濃い紅色とさまざま、散ってもドライフラワーになってきれいなままなの。ひとりがすごいうんじゃなくてみんなが集まって存在感があるという意味で、ブーゲンビリアがいいなあって……。なんかこじつけみたいですけど。

清水 現在会員さんは何人くらいですか?

内田 150人弱です。

清水 乳がんの方ばかりではなく、男性の方もいらっしゃるのか。いろいろな方がいらしてまとめているのは大変ではないですか?

内田 初期乳がんとか再発がんとか病気の程度などで、会員さん間の温度差はありますよね。でも、会員の皆さん魅力のある方ばかりで、女の争い事がないのがすごいと思いますね。スタッフ間の信頼関係もチームワークもよくて、みんなの力が結集して今日までやってこれたということですね。感謝ですね。

清水 内田さんご自身、乳がんになる前と今とは、何か変わりました?

内田 根が明るい性格なので、本質的には何も変わっていませんよね。おせっかいに磨きがかかったということかし

ら。乳がんになって一番の収穫は、『人生が無限でなく、有限だ』という実感を持てたことです。

清水 会をやっている大変だと思ったことはないですか?

内田 活動の中ですごく疲れたなあって思ったことがあったんですね。疲れたなあって。どうしてこんなに疲れるんだらうって考えて、気づいたんです。私は、生意気にも中途半端な配分してたって。

清水 配分?

内田 ええ、時間配分とか、力の配分。午前中この用事があって午後から別の用事があるからエネルギーを保存しておくとか。そうではなくて、「ひとつひとつに全力投球しよう」と思って、その時その時を一生懸命。イメージとして、自分の心の中に泉があって、汲み出しても汲み出してもまた新しい水が湧いてくる……。循環なんですよ。慈愛の循環。瞬間瞬間に自分のすべてを出し切ろうって思ったんです。

清水 出し切ったらまた湧いてくる…。

内田 そう。そしてね、もし燃え尽きてしまったらそれでいい。それが本望、大本望! それから疲れなくなったように思います。

清水 うーん、内田さんとお話していると、すごく元気になってきますよね。

内田 乳がんは1cm×1gになるのに10年かかるって言われているんです。おっぱいって結婚していてもしてなくても、女性の歴史なんですよ。少女期、思春期、成熟期、老年期。それをもぎとられたってというのは大きな衝撃で、女としての人生を取られたような無力感や喪失感をもってしまう。そんな時に、「長い間心にこだわること、何かあったかしら?」って何うと、「実は……」って話し始める。〈話すことは治ること〉の一歩ですものね。

清水 1cmに10年かかるということ、内田さんたちには常識かもしれないけれど、一般の人はあまり知らないですよ。だから10年前とか長い間と言われることで、心が解放されるのかもしれないですね。

内田 「乳がんになってショックだった、悲しかった。おっぱいもぎとられて、なんか女じゃないように感じた。がん=死かと思った」——そういう不安はみんな共通しているんですよ。そのことの分母が同じだから個々の違う分子を見せ合うというか、会にきて本音で話す。そのことを通して、本当の自分を探していく。早くいい時間を過ごすために、すてきな未来のために、一度自分のすべてを洗いざらい出して、自分を見つめなおす。再生——リボンですよ! 乳がんになってありがたかった。乳がんになって多くのことを学べた。健康や家族の大切さを実感した。乳がんになったおかげで、たくさんのお会いがあり人生が豊かになった。せつかく乳がんになったのだから、もっといい生き方をして行く。それは責務だと思うんですよ。妻は、母は乳がんになって治った後、乳がんになる前よりもっと輝いて生きている。母親が乳がんだと娘さんだっただけのリスクがあるわけじゃない? でも恐くない。だって母親はがんをバネにして生きてたなって。それは娘に何を残すよりすてきな事だと思う。うちは息子が二人、将来結婚してお嫁さんが乳がんや子宮がんになっても、弱い人と結婚しちゃって損したなっていう発想じゃなく、うちの母はそれからまたイキイキと生きてたよって。ますますいい夫婦関係を作っていくと思うの。

清水 乳がんは低年齢化してますよね?

内田 そう。乳がんの若年化。私が今後やっていきたいことの中に、中学生に、義務教育の性教育の中で乳がんのことを知ってもらいたい。私の体験を伝えたい。青少年期に命の教育の一環として、乳がんの授業をしたい。おっぱいを大事にすることは人間を大事にすることで、それは自分の体や他の人の体、命を大事にすることでしょ? まずその授業を立川市から始めたい。それを今願っています。

情報をたくさん持っている人もいますが、無関心な人も多いです。

清水 私もブーゲンビリアの存在を知って、今年初めて乳がん検診受けました。マンモグラフィー。

内田 それはよかったです。何よりも早期発見。乳がんは特に。早期発見、早期治療。早ければ治癒率も高くなりますから。だから1年に1回、お誕生日検診とかね、マンモを撮ることをお勧めします。NPOを取得したということは広域活動をするという宣言だから、これからは啓蒙活動にもっと力を注いでいきたいです。自分には関係のないことではなくて、だれもが未体験者であって非体験者ではない。日本の医療を変えて行くにはまず乳がんからと言われています。乳がん治療は日進月歩、どんどん進んでいます。いつまでもマンモが痛いなんていう誤解を持ってもらわないためにも。がんは細胞の老化現象の一つ、また生活習慣病の一つですから……。

清水 乳がんは低年齢化してますよね?

内田 そう。乳がんの若年化。私が今後やっていきたいことの中に、中学生に、義務教育の性教育の中で乳がんのことを知ってもらいたい。私の体験を伝えたい。青少年期に命の教育の一環として、乳がんの授業をしたい。おっぱいを大事にすることは人間を大事にすることで、それは自分の体や他の人の体、命を大事にすることでしょ? まずその授業を立川市から始めたい。それを今願っています。



緑町	陸上自衛隊 立川駐屯地	緑町5番地 524-9321
	うなぎ しら澤	曙町1-9-21 524-5061
	有限会社 クスミ不動産	曙町1-16-2 522-4739
	不動産 大晋商事	曙町1-23-9 525-3110
	ヤマハエブリプラス立川店	曙町1-27-10 523-1431
	蕎麦懐石 無庵	曙町1-28-5 524-0512
	TABACCONIST ゼフィルス	曙町1-28-9 524-0514
	ピストロ シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
曙町	あら井鮨総本店	曙町1-30-13 522-2957
	Cut Studio SOFIA	曙町1-30-21 528-3241
	三田花店 ルミネ立川店	曙町2-1-1-F 527-5587
	KIRIN COFFEE ルミネ店	曙町2-1-1-F 527-2322
町	オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-2311
	東京赤十字血液センター	曙町2-1-1-9F 527-1140
	和生菓子製造直売 日の出屋本店	曙町2-2-18 522-3308
	オリオン書房 第一デパート店	曙町2-2-25-3F 523-3311
	みずほ銀行 立川支店	曙町2-4-6 524-3121
	お菓子の家 エミリーフロアゲ本店	曙町2-5-1-1F 527-1138
	カフェ クリムト	曙町2-5-1-2F 526-3030
	宮地楽器 MUSIC JOY 立川北	曙町2-5-18-7F 527-6888

えくてびあんの輪

立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 緑町・曙町のお店です。

曙町	三井住友銀行 立川支店	曙町2-6-11 522-2151
	Italian Cuisine サヴィニ	曙町2-7-10 525-1662
	Art&Caffee Room 新紀元	曙町2-7-21-4F 528-6952
	多摩中央信用金庫 本店	曙町2-8-28 526-1111
	たましんギャラリー	曙町2-8-28-9F 526-1111
	三上鯉節店	曙町2-8-30 522-3259
	旬彩懐石 若草茶屋	曙町2-8-30 526-0010
	輸入文具 ホワイトハウス	曙町2-11-2-4F 525-8558
曙町	スタンドグラス ぱさーじゅ	曙町2-11-2-4F 522-1941
	輸入雑貨 BASE 26	曙町2-11-2-4F 548-4326
	スパゲティ専門店 はしや	曙町2-11-2-4F 528-2338
町	立川リージェントホテル	曙町2-11-7-2F 522-1133
	フランス風家庭料理 ラ・フランス	曙町2-11-8-6F 529-5522
	ビックカメラ 立川店	曙町2-12-2 548-1111
	洋風和食料理 このはな	曙町2-12-5-3F 527-8045
	Wine & Dining るもん	曙町2-12-13 527-3022
	東京三菱銀行 立川支店	曙町2-13-3 524-4121
	ローソン 立川曙町二丁目店	曙町2-17-3-1F 526-7652
	いわしのたかね	曙町2-17-5-1F 527-5958
	カフェ アバン	曙町2-17-15-2F 527-4479



精悍な美に魅せられて



カワセミ写真家 平間厚司さん

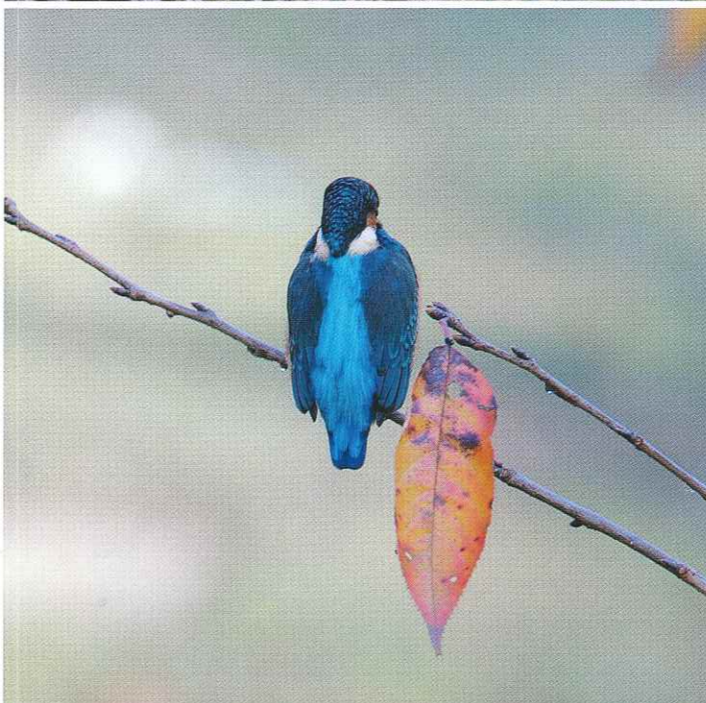
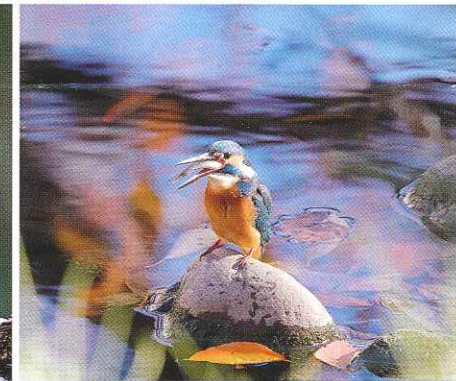
水辺で見られる野鳥たちの中でも、カワセミは一格違う。全体の翡翠色と胸から腹にかけての鮮やかなオレンジのコントラスト、水面の上を直線的に飛ぶ素敵なスピード、魚を捕らえる鋭いダイビング……。カワセミに魅せられて、カワセミだけを追いかけているアマチュア写真家がいる。

カワセミの写真：平間厚司さん提供
写真：加藤正嘉

柴崎町に住む平間厚司さんがその人。プロの写真家と仕事で一緒になるうちに自分もカメラを持つようになった平間さんが、カワセミと運命的な出会いをしたのは5年ほど前のこと。多摩川で水面に矢のように飛び込み魚を捕らえる姿に「こんなに精悍で美しい鳥がいるのか……」。長い望遠レンズをつけたカメラを担いで水辺通いが始まった。

寒中、少ない魚を求めてじっと水面をうかがう姿、春の産卵時期からヒナの巣立ち、初冬、オスが魚をメスに運ぶ求愛の季節——写真を撮ることももちろんだが、ファインダー越しに垣間見るカワセミの生きる姿に感動するという。餌の魚を網に入れ、枝ぶりのいい木を上にかざしたり、写真を撮るための仕掛けをしたこともあるが、今は偶然出会う自然な姿を追う。「カワセミの追っかけです」。

多摩川や根川には、カワセミがよく見られるスポットがいくつもある。街のすぐ近くに残る自然が、土手に巣を営み生きた魚を捕る鳥の命を支えている。多摩川で大規模に進められる護岸工事、同じように魚を捕るカワウやサギが急が増えていることなど、その環境条件が変わってきているのが、少し気がかりだ。



立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩てはこ
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てはこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじょうらくがじょう

スカイパーフェクTV2 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて七十年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)



パレスホテル立川

〒190-0012 東京都立川市曙町2-40-15

お問い合わせ、ご予約は

TEL 042-527-1111

FAX 042-527-5169

http://www.palece-t.co.jp

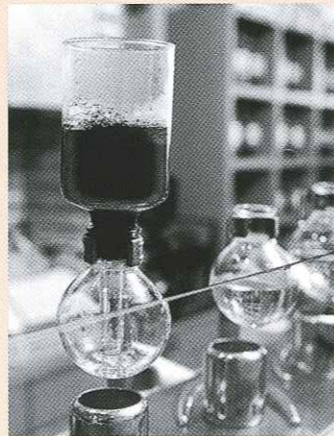
この人この店 ③

Coffee Shop
LARGO

店長 遠藤克一さん



〒190-0023
立川市柴崎町3-7-22
TEL 042-525-6704
営業時間 平日 9:00～21:00
日・祝日 9:00～19:00
閉店30分前にオーダーストップ
定休日 第3水曜日



柴崎町3丁目、立川駅南口徒歩2分の

ラルゴはもうすぐ開店2周年。といっても店長の遠藤さん、北口の人気コーヒーショップに28年もいたのだから、顔は広い。いろいろな方が来店し、いつのまにか常連になっていくという。「お客様同士がお話しているうちに親しくなったりして、ここがみなさんの出会いの場になればいいなあって思います」と遠藤さん。いつも笑顔でソフトな語り口。ラルゴとは「ゆっくり」という意味のイタリア語。一杯一杯サイフォンに入れてもらうコーヒーを楽しんで、クラシック音楽に包まれながらゆったりとした時間を過ごせます。「コーヒーは嗜好品だから、おいしいと感じるのも人によってさまざまですね。僕がおいしいと思って入れるコーヒーをおいしいと感じてもらえれば、幸せなことです」。有機栽培のグアテマラ、さっぱりとしたキレがあっておいしかったです。

写真：五来孝平

えくてびあん流

吉例〈ベスト立川人・展〉開催

新春恒例のえくてびあん〈ベスト立川人・展〉を今年も開催いたします。この一年えくてびあんに登場していただいた人、輝いた方たちを一挙紹介する写真展です。毎号表紙を飾った立川人をオリジナルプリントでご覧いただく〈写真家・細江英公「えくてびあん表紙の人・展」〉、対談にご登場いただいた方々。人がいて、立川は今日も元気です。多摩てはこネット紹介コーナーも同時開催。

第21回『ベスト立川人・展』
平成18年2月7日(火)～12日(日)
午前10時～午後7時
最終日は午後5時で終了。
立川市女性総合センター・アイム
1F ギャラリー



住宅地の真ん中に ぽっかりと異空間

富士見町2丁目の石田産業倉庫には、外からはわからないけれど多くのアーティストが集まっている。No.3とかNo.5のプレートが貼った高い壁、急な階段、うすいガラス窓の中でドアノブや陶器を作ったり、葉っぱの絵を描いたり、現代アートを制作したり。ふだんは創作の場のアトリエを展示会場にしてしまったのが今回の〈石田倉庫のアートな2日間〉。想庫な人々(アーティスト)は全部で26人。いつもは人影のない倉庫街が、多くの人で賑わった。出入り自由の会場で家具を見て、鏡をのぞいて、絵を眺め、指輪を試して、のんびりした時間を過ごす。おながすくと、焼き鳥やカレー、ピクルス、お菓子の屋台。これもまた想庫な人々の作品。「来年もまたやってほしい」との声も聞こえて、大成功な2日間だった。



タチカワ誰故草 ③

蕎麦と宮口精二

森 忠明

幼少年期から「喪服を着てほほえむ」(ボオドレエル)でいるような町人や芸術に惹かれた。晴れやかすぎる立川駅の近くで生まれ育った者の反動だろう。
怒られるかもしれないが、武蔵五日市(現あきる野市)という町は喪服を着てほほえんでいて、大好きである。澄みしる秋川が静かに流れ、住民がさりげなくやさしい。早朝あるいは夕刻、すれちがう黒眼鏡の怪人に、鉄をかついだおじいさんも、灯油配達のおじいさんも、草を眺めているおばさんも、「こんにちは」と声をかけてくれる。廣徳寺の坊様は午後四時半のスピーカー音響「故郷」のあと、数分ずらして遠慮がちに鐘を撞き、夜参もできるように本堂正面の障子をいつも二寸ほどあけてくれる。難をいえば、時を得顔の政治家ポスターを素朴な田園におったてている点のみ。
過日、画家の野崎義成氏と若い詩人の石田洋平さんと秋川べりをそぞろ歩き、蕎麦屋「忠左衛門」で呑んだり食ったりしたのだが、会計のさい、持ち金が足りないことに気づいた。すぐそばに住む高校時代の恩師・石井道郎先生のところへ借りにゆこうとすると、店主とおぼしき臆たけたレディーがほほえみ、「こんどいらっしやる目で結構ですよ」とのたまった。なんとというオヨヨさ。いまだきそこまで客を信用する店や人があろうか。タチカワの蕎麦屋なら「無庵」の竹内洋介氏くらいかな。



挿画：野崎義成

「七人の侍」(54・東宝)における寡黙な剣豪・久蔵を見たのだった。
腰を少しおとした脇構えから野武士たちを瞬時に倒すシートの格好よさ。それ以上に格好いい蕎麦の「さびしい」食い方であった。
このあいだ、BSだったか、TVのチャンネルを変えていたら、星野仙一氏と小沢征爾氏が、かなり高級そうな料亭の座敷でざるそばをすすっているのが映った。後者はいわゆる犬吠いしている。(野球と音楽はうめえかもいれねえが、蕎麦の食い方はなっちゃねえな。脂っこい物なら似合うのに)と思った。へ私にはあの荒々しい粉をかためたひもを食うのではなく、「さびしさ」を食うのである。だから都会の朱塗のらんかんによりかかって高樓のテーブルでたべても、その食う位置がぶちこわしになる。(西脇順三郎氏)。
一九七四年の初夏。渋谷のNHKに仕事をもらいに行つた二十六歳の私は、その大食堂の片隅で独り端然とよりそばを認める宮口精二、あの

「無庵」は東京らしい、東京を代表するそば屋の一軒ということが出来る。この店の剛毅なダイナミズムが結果的に体現しているものは「洗練」である。(「新そば読本」宮下裕史氏・平凡社)。
燈台下暗し。「無庵」は拙宅より一五八歩の距離にあるけれど、何だか敷居が高い。

表紙の人

ペーター・ガーンさん
(砂川町)

ドイツ哲学は森を歩きながらの思索から生まれたという説がある。昨年、活動の拠点を砂川町から郷里ドイツ・デュッセルドルフに移したが、日本で立川の地を選んだ理由は散歩できる場所があるからだという。西洋音楽の本場と、同じ作曲家の妻・康子さんの故国日本。ふたつの国を往復しながら、異文化の出会いと理解を作品に取り入れ、現代音楽で数々の受賞。毎秋、古民家園「小林家住宅」で開かれる市民主催の音楽プログラムの芸術監督も昨秋で4回目となった。西洋と東洋、伝統と現代を自在に融合する発想は、やはり自然の中の散策から生まれるようだ。

玉川上水遊歩道で 写真：細江英公

かたこと

この前新しい年が明けたかと思っていたら、もう2月です。厳しい寒さのなかにも節分、立春と季節は確実に春に向かっていきます▼夜明け前の闇はいちばん深いといいますが、春めいてくる前の寒さはこたえます。霜をしのいで伸びる草木の芽、薄氷の水面に浮かぶ水鳥。自然の生き物の生命力が輝いて見えます▼VIEWでご紹介した平岡厚司さんは鳥、それもほぼカワセミだけを撮る写真家。翡翠、水辺の宝石ともいわれる精悍な美しさは人を惹き付けます。同時に彼らが見られる身近な環境も守っていききたいもの▼生きるものすべて寿命があり、病気になることもあります。中でもがんは今や最大の脅威。とりわけ女性にとって乳がんは切実です。対談をさせていただいた内田絵子さんは乳がん闘う女性たちの元気の素というべき方。明るく前向きなパワーは病も冬の寒さも吹き飛ばすよう▼表紙裏で連載をお願いしていた群馬直美さん<葉っぱの精神>に代わり、今月から「立川和菓子ものがたり」がスタートしました。立川の甘い詩情が伝わるでしょうか▼表紙のペーター・ガーンさんが歩く玉川上水沿い冬枯れの中に樹々の芽が膨らんでいます。初午を終えればこもれびの里も春の農作業。寒さもあとわずかです。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 加藤正嘉/五来孝平

えくてびあん (C) 2月号

第24巻 通巻255号
平成18年2月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

【うど。パイ】

関東ローム層を利用した立川名産うど。
それを洋風な和菓子に仕立ててある。さ
くっとバターの香り豊かなパイ生地包
まれているのは、上品でコクのある白あ
ん。混ぜ合わされたうどはやわらかくフ
ルーティー。おへそのくるみが味のアク
セントにもなっている。寒い日には温め
ても、またおいしい。(やな瀬/錦町)



立川和菓子ものがたり

目に美しく食して美味 ①

【たまの鈴】

ニヤンともかわい形をしている。鈴の
かたちをしているのはしっとりとしたカ
ステラ。中にはこしあんがぎゅっと入っ
ている。添加物を一切使わない素朴なお
いしさが多摩らしい。甘すぎずパサつか
ない。ひと袋に1個、もれなく鈴がつい
てくる。立川においしい鈴がすずなり。

(立川伊勢屋/高松町)

